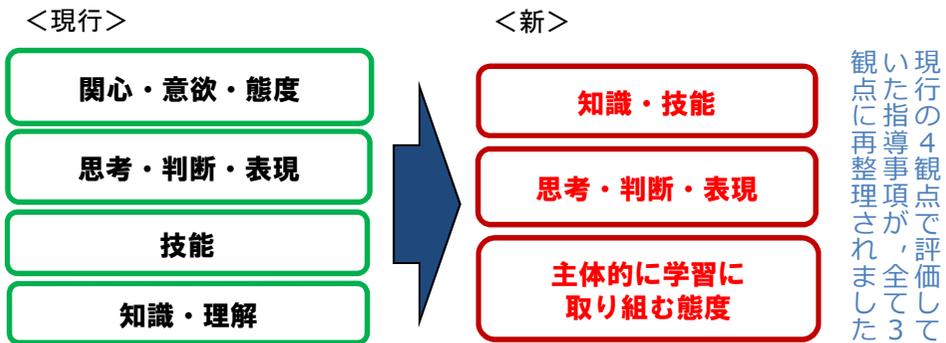


# 学習評価について（中学校保健体育科）

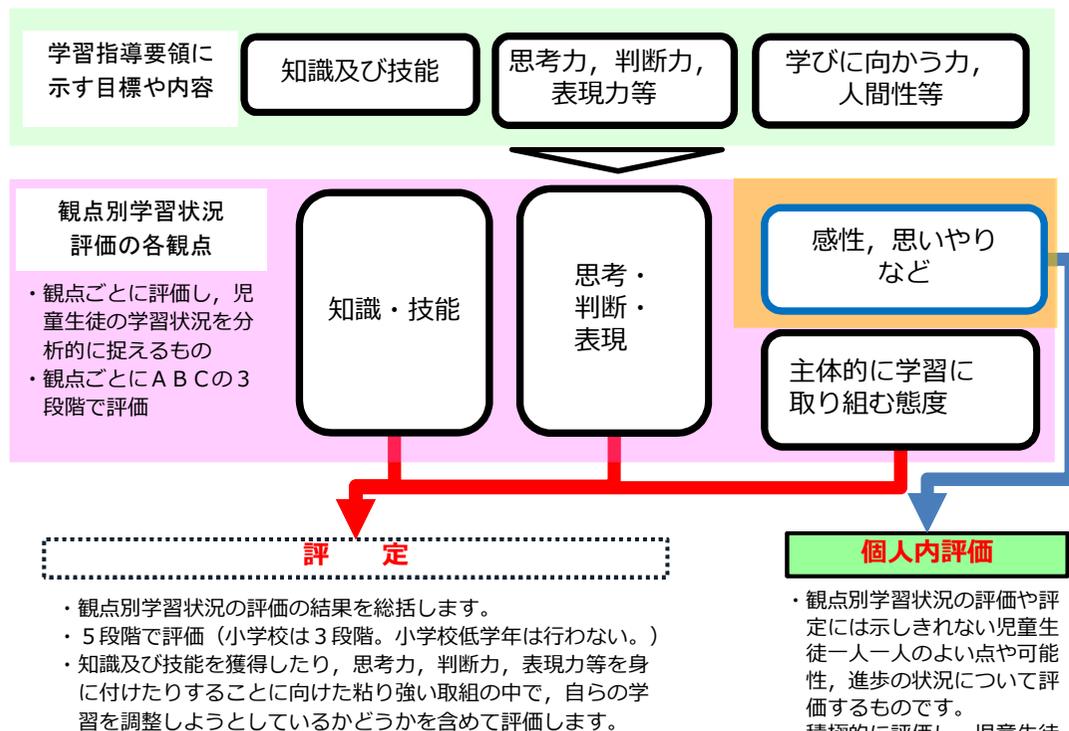
## 観点別学習状況の評価の観点の整理

資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて、観点別学習状況の評価の観点については、小・中・高等学校の各教科等を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理されました。



## 学習評価の基本構造

各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況の評価するものです。（目標準拠評価）したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なります。



## 評価の観点と趣旨

| 知識・技能   | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度  |
|---|--|--|
| <p>運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに, 運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。</p> <p>また, 個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに, 基本的な技能を身に付けている。</p> | <p>自己や仲間の課題を発見し, 合理的な解決に向けて, 課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに, それらを他者に伝えている。</p> <p>また, 個人生活における健康に関する課題を発見し, その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに, それらを他者に伝えている。</p> | <p>運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう, 運動の合理的な実践に自主的に取り組もうとしている。</p> <p>また, 健康を大切にし, 自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。</p> |

＜体育分野＞では, 「知識」は, 運動やスポーツの多様性, 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方（第1学年及び第2学年）, 文化としてのスポーツの意義（第3学年）についての考え方を理解していること。

「技能」は, 各運動（第1学年及び第2学年）, 選択した運動（第3学年）の特性に応じた基本的な技能を身に付けていること。

＜保健分野＞では, 「知識」は, 健康な生活と疾病の予防, 心身の機能の発達と心の健康, 障害の防止, 健康と環境について理解していること。

「技能」は, ストレス対処の方法, 応急手当ができること。

＜体育分野＞において, 運動を豊かに実践するための自己の課題（第1学年及び第2学年）, 生涯にわたって運動を豊かに実践するための自己や仲間の課題（第3学年）を発見し, 運動の取り組み方や組み合わせ方を工夫しているとともに, 自己や仲間の考えたことを他者に伝えていること。

＜保健分野＞では, 健康な生活と疾病の予防, 心身の機能の発達と心の健康, 障害の防止, 健康と環境について課題を発見し, 科学的に思考し判断しているとともに, それらを他者に伝えていること。

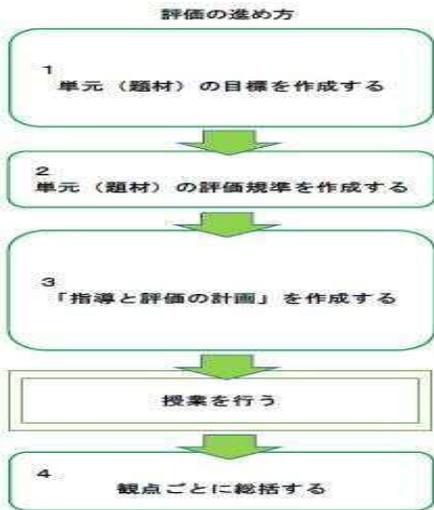
＜体育分野＞において, [第1学年及び第2学年]では, 公正, 協力, 責任, 共生などに対する意欲をもち, 健康・安全に留意して, 学習に積極的に取り組もうとしていること。

[第3学年]では, 公正, 協力, 責任, 参画, 共生などに対する意欲をもち, 健康・安全を確保して, 学習に自主的に取り組もうとしていること。

＜保健分野＞では, 健康な生活と疾病の予防, 心身の機能の発達と心の健康, 障害の防止, 健康と環境について, 自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしていること。

# 指導と評価の計画 例

## ★学習評価の進め方と留意点



○ 学習指導要領の目標と内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。  
○ 生徒の実態、前単元(題材)までの学習状況等を踏まえて作成する。

○ 1, 2を踏まえ、評価場面や評価方法を計画する。

○ 3に沿って観点別学習状況の評価を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。

○ 評価の資料や評価結果などから、観点ごとの総括的評価(A, B, C)を行う。

<参考>「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料  
国立教育政策研究所 教育課程研究センター(令和2年〇月)

|  |                            |
|--|----------------------------|
| 保健体育科(体育分野) 事例1<br>キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで | 内容のまとめ<br>第1学年及び第2学年「E 球技」 |
| 単元名<br>球技：ゴール型(サッカー)<br>第1学年               |                            |

**1 単元の目標**  
(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性(や成り立ち)、技術の名称や行い方、(その運動に関連して高まる体力)(など)を理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。  
ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前で攻防をすることができるようにする。  
(2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。  
(3) (球技に積極的に取り組むとともに)、(フェアなプレイを守ろうとすること)、(作戦などについての話し合いに参加しようとする)、(一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする)、仲間の学習を援助しようとする(など)や、健康・安全に気を配ることができるようにする。

### 2 単元の評価規準(学習活動に即した評価規準)

「知識・技能」「知識」の評価規準と「技能」の評価規準に分けて設定する。

| 知識・技能   | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度   |
|---|--|---|
| <p>○知識</p> <p>①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p> | <p>①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。</p> <p>③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。</p> | <p>①練習の補助をしたり仲間を助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。</p> <p>②健康・安全に留意している。</p> |
| <p>○技能</p> <p>①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。</p> <p>②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。</p> <p>③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。</p>   |  |   |

①, ②のように複数個に細分した評価規準を想定するが、順序性を示すものではない。

重点としていない観点についても、教師の指導の改善や生徒の学習改善に生かすために、生徒の学習状況を確認することは重要である。

## ～ 保健分野 ～

保健体育科(保健分野) 事例5  
キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで

|              |                          |
|--------------|--------------------------|
| 単元名<br>傷害の防止 | 内容のまとめ<br>第2学年 (3) 傷害の防止 |
|--------------|--------------------------|

**1 単元の目標**  
(1) 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因、交通事故などによる傷害の防止、による傷害の防止、応急手当の意義と実際について、理解することができるようにするとともに、心肺蘇生などの技能を身に付けることができるようにする。  
(2) 傷害の防止に関わる事象や情報から課題を発見し、自他の危険の予測を基に、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができるようにする。  
(3) 傷害の防止について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。

| 知識・技能   | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度                                  |
|---|--|--|
| <p>①交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因、環境要因及びそれらの相互の関わりによって発生することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>②交通事故などによる傷害を防止するためには、人的要因や環境要因に関わる危険を予測し、それぞれの要因に対して適切な対策を行うことが必要であり、人的要因に対しては、安全に行動すること、環境要因に対しては、交通環境などの整備、改善をすることがあることや、交通事故を防止するためには、自転車や自動車の特性を知り、交通法規を守り、周囲の状況に応じ、安全に行動することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>③自然災害による傷害は、例えば、地震が発生した場合に家屋の倒壊などによる危険が原因となって生じることや、地震に伴って発生する津波などの二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の防止には、自他の安全を確保するために冷静かつ迅速に行動する必要があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>④傷害が発生した際に、迅速かつ適切な手当は傷害の悪化を防止できることや、応急手当には止血や患部の保護や固定があり、その方法について、理解したことを言ったり書いたりしているとともに、実習を通して包帯法や止血法としての直接圧迫法ができる。</p> <p>⑤心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当には、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED使用などの心肺蘇生法があり、その方法について、理解したことを言ったり書いたりしているとともに、実習を通して胸骨圧迫、AED使用などの心肺蘇生法ができる。</p> | <p>①傷害の防止について、課題に関わる事柄や情報などを整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見している。</p> <p>②自然災害などによる傷害の防止について、習得した知識を自他の生活に適用したり、傷害の状態に合わせて悪化を防止する方法を見いだしたりして、傷害を引き起こす様々な危険を予測し、回避する方法を選択している。</p> <p>③傷害の防止について、自他の危険の予測や回避の方法と、それを選択し、それを伝え合っている。</p> | <p>①傷害の防止について、課題の解決に向けての学習に自主的に取り組もうとしている。</p> |

「主体的に学習に取り組む態度」学習指導要領に内容が示されていないことから、教科・分野の目標、観点の趣旨を参考に作成する。

「知識・技能」「知識」の評価規準と「技能」の評価規準に分けて設定する。

「主体的に学習に取り組む態度」「愛好的態度」「公正」「協力・責任」「参画・共生」「健康・安全」の各項目に分けて設定する。

実習については、技能の出来映えのみを評価するのではなく、知識と一体的に評価する。

| 時間 | ねらい・学習活動  | 知 | 思 | 能 | 評価方法   |
|----|---|---|---|---|--|
| 1  | 交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因、環境要因及びそれらの相互の関わりによって発生することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。  |   |   |   | (学習活動2)<br>傷害の防止について、課題の解決に向けての学習に自主的に取り組もうとしている状況を【観察】で捉える。(徳①)<br>※教師の指導改善のための評価<br>(学習活動4)<br>交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因及びそれらの相互の関わりによって発生することについて、理解したことを言ったり、書いたりしている内容を【観察・ワークシート】で捉える。(知①) |
| 2  | 交通事故などによる傷害は、安全な行動、環境の改善によって防止できることについて理解することができるようにする。   |   |   |   | (学習活動3)<br>交通事故などによる傷害を防止するためには、人的要因や環境要因に関  |
| 3  | グループでの話し合いを基に全体で意見交換をする。  |   |   |   |  |
| 4  | 交通事故や自然災害などによる傷害の発生は人的要因、環境要因が関わって発生することをワークシートにまとめ、発表する。   |   |   |   |  |
| 5  | 自然災害などによる傷害の防止について、習得した知識を自他の生活に適用したり、傷害の状態に合わせて悪化を防止する方法を見いだしたりして、傷害を引き起こす様々な危険を予測し、回避する方法を選択している内容を【観察・ワークシート】で捉える。(思②)   |   |   |   | (学習活動1・2)<br>自然災害などによる傷害の防止について、習得した知識を自他の生活に適用したり、傷害の状態に合わせて悪化を防止する方法を見いだしたりして、傷害を引き起こす様々な危険を予測し、回避する方法を選択している内容を【観察・ワークシート】で捉える。(思②)   |
| 6  | 過去の大地震の資料を見て、どのようなかを調べたり、これを振り返ったりする。   |   |   |   |  |
| 7  | 「災害から命を守るために～防災教育教材～企画：文部科学省」を視聴し、二次災害によって傷害が生じることについて、理解したことを言ったり、書いたりしている内容を【観察・ワークシート】で捉える。(知③)  |   |   |   | (学習活動3)<br>自然災害による傷害の防止は、自   |
| 8  | 四列のグループで話し合い、課題の解決に向けてグループで話し合う。<br>応急手当の手順や心肺蘇生法の行い方を教科書や視聴覚教材で確認する。<br>心肺蘇生法の実習をグループで行い、発表する。   |   |   |   | 害、胸骨圧迫、AED使用などの心肺蘇生法があり、その方法について、理解したことを言ったり、書いたりしているとともに、実習を通して胸骨圧迫、AED使用などの心肺蘇生法ができる状況を【観察・ワークシート】で捉える。(知⑤)  |
| 9  | 課題の解決に向けて、自他の危険の予測や回避の方法と、それを選択した理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合うことができるようにする。<br>1 今までの学習内容を確認する。<br>2 傷害のケースを示した場面カードを引き、傷害が発生した場面やけがの状況に即して応急手当の方法と手順をグループで話し合い、発表する。 |   |   |   | (学習活動2を授業後に評価)<br>傷害の防止について、自他の危険の予測や回避の方法と、それを選択した理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合っている内容を【観察・ワークシート】で捉える。(思③)<br>(学習活動2)<br>傷害の防止について、課題の解決に向けての学習に自主的に取り組もうとしている状況を【観察】で捉える。(徳①)          |